

令和4年度 大田区立東蒲小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

○本校の規模 全9学級 児童数239名(4月1日現在) 教員数18名
 ○教育目標 ① 友達を大切にできる子ども ～思いやりのある心豊かな子ども～ ② 運動で体をきたえる子ども ～運動に楽しみ、心身ともに健康な子ども～
 ③ 本気で学ぶ子ども ～「深い学び」に自ら取り組む子ども～ ④ よく聞き話せる子ども ～対話を通して協働して課題を解決できる子ども～
 ○校内研究 研究主題 「進んで考え、互いに学び合う子ども」

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成を図っている。 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	教員向けアンケートで「プログラミング学習を行っている」「クローம்பックを有効活用している」と回答した教員の割合 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 クローம்பックを活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を授業、家庭で定着させる。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	校内研究に関する児童アンケートで「書くことが楽しい」等と回答した児童の割合 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおむね会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	児童アンケートで「友だちと仲良くしている」と答えた児童の割合 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	生活アンケートで「運動することや外で遊ぶことが楽しい」と回答した児童の割合 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 教職員がそれぞれのキャリアプランを基にライフワークバランスを考え、向上心をもちながら職務を遂行する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	学校公開時の保護者アンケートで「学習がわかり基礎的な学力が身に付いている」と回答した割合 3:80%以上 2:75%以上 1:75%未満	4:95%以上 3:85%以上 2:75%以上 1:75%未満	
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。 4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。 4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。 4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。 4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	保護者アンケートによる13項目の肯定評価の平均値 3:85%以上 2:75%以上 1:75%未満	4:95%以上 3:85%以上 2:75%以上 1:75%未満		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可